

「こうちょうせんせい あのね」 7

放課後、外から校長室の窓をたたく音。女の子が、

「校長先生、びわがなってるよ。」

そう言われて、校庭へ飛び出し、女の子についていくと、
何とたくさんのびわの実が実っていることでしょう。

「鳥に食べられているところがあるよ。」

「1年生の時に食べたんだ。」

「ふにふにしている。やわらかい。」 (実をさわりながら)

「葉っぱはかたい。」 (葉っぱを触りながら)

「あ、びわの種が落ちている。」

「いつから、(びわの木が) あるのかなあ〜。」

女の子たちとびわを見ながら、いろんな話をしました。

びわの木は、大きな桜の木に守られるようにして、大きな木に生長し、びわの実を実らせています。そして、隣にある梨の木と共に子どもたちを見守っているようです。もちろん、そのびわの木のことを見つめる子どもたち、最高です。

